企業名: キッツ

レポート名: Corporate Report 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

KITS のコーポレートレポート全体を通じて最も重視されていると感じた点は、サステイナビリティへの取り組みである。多くの企業においても統合報告書でサステイナビリティへの取り組みをアピールしている企業は多いが、KITS は、社内での CO 2 削減への取り組みだけでなく、経済産業省から「ゼロエミ・チャレンジ企業」として認定され、山梨県と「グリーン水素基本合意書」を締結する、更には、傘下企業のキッツメタルワークスが長野県SDGs 推進企業として登録されるなど外的な取り組みを含めて環境問題を問題視し、解決へ取り組んでいる点が見受けられた。また、1951 年創業の老舗企業でありながら、下図1に見られるように、経常成長率も過去10年の平均で18.794%であり(決算期変更の変則期間である2020年度は9ヶ月決算)、第一期中期経営計画では積極的な戦力投資計画を組み、新規事業への展開も積極的であることから、将来性の高さもあると考えられる。

以上のように、KITS は老舗のバルブメーカーでありながら、環境問題や新規事業にも積極的な取り組みを見せており、目標である「100年企業」に向けて活動を続けていると考えられる。



図1:経常成長率

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

KITS のもつ最大の事業は、売上高構成比 78.3%を占めるパルプ事業である。コーポレートレポートでは、バルブ事業の強みとして、様々な材質や形状のラインナップを有している点、品質保証体制を築いたことによる「KITS」ブランドの確立、国内市場においての、日本全国をカバーする代理店網によるバルブ市場の高いシェアの 3 点を挙げており、そこに加えてバルブ事業において、社内で鋳物から一貫生産を行えている点も強みとしてあげられると考えられる。また海外展開においてもインド、UAE に駐在員事務所を置くほか、中国、香港、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置するなど、グローバルな販売ネットワークを構築している点も強みとしてあげられる。また、キッツブランドの確立の要素として、国際的な品質規格の承認があげられる、国内での JIS 製品認証や JWWA の規格、国際的にも国内および中国の生産拠点において、API (アメリカ石油協会)の Monogram 表示許可等を取得するなど、社内にとどまらない品質保証が見られる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

KITS の企業としての競争優位性の持続性として、バルブ事業においては、主たる事業として、中国、台湾に生産拠点を構える中で、外交関係等の万が一の事態に備えて日本国内で生産するための体制を整えつつあり、生産拠点の一部をベトナムに移管することの決定など、生産体制の見直しをはじめとするリスクマネジメント策を社長挨拶のなかで紹介されており、新規事業を展開する一方で既存事業の維持・伸長を考えていることが見てとることができた。一方で新規事業への投資も積極的に行なっており、企業として、将来に向けたビジョンがあり、持続的な成長も見据えていると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

コーポレートレポートにおいて、KITS は人材育成戦略として、経営陣と社員の対話イベント「KITS Group Engagement Forum 2022」を開き、社員に会社としてのビジョンの浸透を図り、社員からの課題、提案を聞く時間を設け、「DX 人材育成」と称してキーメンバーの育成として啓蒙活動とスキル教育を行い、スキル教育では、データ分析教育を通して課題と原因を正しく捉えて解決する力、現状を整理し自ら解決する力をRPA や業務アプリの市民開発教育を通じて養う活動を行なっている。これらの活動には2022年時点で170~200人がスキル教育を受講しており、新たな企業文化の担い手となるとしている。一方でコーポレートレポートの社長挨拶で示されているように、エンゲージメントスコアとして「働きがい」が48ポイント、「働きやすさ」が44ポイントとなっており、これは、日本のエンゲージメントスコアの平均が70.3点であることを考えると低い数値であると考えられる。エンゲージメントスコアは社員の貢献度ひいては生産性につながる指標であると考えられ、その上昇が望まれる。それらの点を考慮すると、人材投資への積極的な取り組み、スキル教育等は

行なっている一方で、エンゲージメントスコアから考えられるように、人的資本の価値向上 において極めて高い力を持つ企業とは必ずしも言えないことがわかる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点として、企業が力を入れていると思われる環境への取り組みが全面に押し出されており、そこが伝わってきている点が当てられる。また、各事業における具体的な取り組み、強み等も提示されている点があげられる。改善余地としては、統合報告書であるとはいえ、財務情報や、数値的な経営計画が示されているページが少ない点があげられる。財務戦略の専門として示されているのが36ページ中1ページのみであり、企業価値の判断基準の一つとして数値を伴った取り組みのデータも分析の一環として判断したいと考えた。

6.参考

- ・6498 キッツ 成長性分析 https://irbank.net/E01660/growth (最終閲覧日 2023-07-20)
- ・エンゲージメントスコアとは?【注目される背景やメリットについてご紹介しまる】 https://global-saiyou.com/column/view/engagement_score#:~:text=エンゲージメントスコアの平均,-Wevox を利用&text=全体での平均は,ことがわかりました%E3%80%82 (最終閲覧日 2023-07-20)